

寺報 佛心

第56号

秋のお彼岸について

九月二十二日十時よりお彼岸総供養を長久寺で行います。

お彼岸廻りについて

左記の日程でお参りします。戸が開けばお留守でもお勤めをさせていただきます。ご都合の悪い方はご連絡ください。

九月十二日午前 友重・平原
 十四日午前 野登路1班
 十六日午前 野登路2班
 十七日午前 市原1班
 十九日午前 市原2班
 二十日午前 国木原1班
 二十一日午前 国木原2班
 地区外の方ご希望の方は、ご連絡下さればお伺いします。

観月茶会



九月十五日夕方6時から7時30分まで、長久寺本堂で、ささやかな催しものですが観月茶会を行いたいと思います。この時間帯では名月は見られませんが、夕涼み散歩がてら随時お越し頂き、琴・尺八の演奏を聞きながらお抹茶を召し上がっていただけたらと思います。

今宵はテレビやスマホから離れ、自然の静けさにどっぷりと浸ってみるのも趣向だと思います。ご近所お誘いあわせの上お越しください。

日輪山 長久寺

【発行所】
 岩國市美和町生見八一七
 電話 〇八二七(九六) 〇九八二
 FAX 〇八二七(九六) 〇九八二
 発行人 三上宗順

幸せになる方法 その⑩

2500年前、ここインドの祇園精舎のある日の出来事。目の見えない修行僧が、衣のほころびを縫うために「針の穴に糸を通してくれる功德者はいないか」とたずねると「わたしが功德を積ませてもらおう」と誰かが言った。

声でお釈迦様と気付いたその僧は「お釈迦様にそのようなことなど思いもよらぬことです」と恐縮した。「世間にさいわいを求める人、わたしにまさる者はいない」とお釈迦様は仰せられるので「悟りを開かれたのに、この上なぜさいわいをお求めになるので

すか」とその僧は聞いた。お釈迦様は「真理の追及にはおわりというものはない。幸福の追求もまたそうである」と、次のように説かれた。

「この世にある様々な力の内、さいわいの力は最も勝っている。天界にも人界にも、これに勝るものはなく、仏道もまたこのさいわいの力によつて成る」(法句経より抜粋)お釈迦様は功德が幸せを生み、幸せの力はこの世でもっとも強い力だと仰った。

今まさにパリ五輪。アスリートたちが言う「誰かの為に…」は、ひたすら一生懸命に競技に臨めば、誰かを元気にし幸せにする。そして自らは絶大なパワーを発揮する。アスリートは経験的にこの功德を知っているのでしょうか。「誰かの為に…」最もパワーのある幸せになる方法ですね。

想像力のチカラ：

8月1日の新聞のコラムに目が止まりました。

100年前の7月24日は26.8度、ちょうど丑の日の今年は36.0度で、何と10度の差。そして24日以後一週間では、平均6度以上の温度差があるというのです。

このコラムが当時と現在の気温を比較しているのは、100年前の7月24日に芥川

龍之介が服毒自殺をし、友人の内田百閒が「息もできないほどの暑さが続き…この暑さで亡くなったのだ」と理由にもならない理由で友人の死を悼み自らを慰めているという内容を載せながら、実は現在の高温を嘆いた記事なのです。ところでご承知のように芥川龍之介の父は美和町の出身。美和町史に「芥川龍之介の父俊三は、嘉永3年1850生見

で、新原常蔵の次男として生

まれた。この新原家は、現在の生見志谷に在った。維新後俊三は上京して、政府が進めていた畜産政策に携わり、渋沢栄一に認められて活躍している。明治10年1868俊三は、芥川ふくと結婚し、やがて龍之介が生まれる。明治37年1904新原龍之介は芥川家の養子となり、芥川龍之介が誕生した。」とあります。

エッ！シブサワエイイチ：あの一万円札の？。美和町出身の龍之介の父は、渋沢栄一とかかわりがあったのかあ。

今年7月3日に発行のあの顔。何だか親しみを覚えちゃいますね。しかしその肖像を眺める余裕もなく、すぐに手元を離れてしまうから縁は薄い。

さて、100年前「息もできないほどの…」と形容された暑さ、今年こそこの形容が

ぴったりです。

そんなある日の極暑の中の棚経(お盆の檀家さん廻り)。

あるお宅の仏壇に、小ぶりの鮮やかなヒマワリがお供えしてありました。

真黄色の大きな花卉の晴れやかさは気持ち明るくする。よく見ると緑の葉の水滴が新鮮で清々しい。これはきつとお参りに合わせて直前に摘み取られたものだど、ご都合主義の私にはぜん元気を出し、声もノリノリ。人間の生気はふとしたきっかけでよみがえるものなのですね。

イヤー待てよ今日は広島の原因の日じゃったよの…ウクライナや中近東は戦争真つ只中、核の恐怖は現実味をおびている。今日は世界平和を祈る日。だから仏花もウクライナの国花ヒマワリだった。

80年前、ついこの間と

言ってもいい、日本が吹っ掛けたあの戦争で300万人超を、世界では4000万とも5000万人ともいわれる死者を出している。広島の原因で亡くなった人は推定14万人ともいわれている。

推定…？人の命は数ではなく、一個一個大切な命、僕の私の、あなたの命。統計とか推定とかが、個々の命を一束にするのには違和感がある。

実は戦争は一つひとつの命とは考えないらしいです。例えば「何万人の兵力」というように…しかし死にたくない命が一つひとつ。ある歴史学者は「誰も死にたくないし加害者にもなりたくない。ここに戦争と向き合うための重要な想像力があるのではないか」と言われています。

戦争・地球沸騰化…遅きに失す!!でも頼みは想像力かも…